

青い空白い雲

長野県手をつなぐ育成会ニュース
2017年3月発行
発行者 長野県手をつなぐ育成会
会長 中村 彰
〒380-0928
長野市若里7-1-7
長野県社会福祉総合センター5F
Tel 026-227-6811
Fax 026-227-6836

地域で暮らそうフォーラム2016！

昨年末の12月17日（土）上田市の長野大学を会場に地域で暮らそうフォーラム2016！が開催されました。このフォーラムは「障がい者が地域で暮らす」を主題にフォーラム実行委員会と長野県の共催で長野県相談支援専門員協会の協力のもと毎年開催されており基調講演・分科会・交流会で構成されています。

今回は中村彰育成会会長が実行委員長となり「障がい福祉のこれからの夢と期待を伝えます」をスローガンに主にこれからの障がい者福祉の現場を担う若い相談員や支援員を中心に、長野大学の学生も交えながら企画運営されました。今年は松本方面でフォーラムを開催する予定になっていますので育成会の会員各位も関心をもってご参加いただければ幸いです。

総合支援法改正が3年後の見直しの議論を終え平成30年4月からの施行を待つまでになりました。詳しくは冊子「手をつなぐ」11月号に掲載されていますが、ここで主な改正内容をご紹介します。

障害者総合支援法の改正のポイント

自立生活援助

新設の事業です。ヘルパーが週に1、2回、見守りのために訪問し必要に応じてアドバイスや家事の支援を提供するもので、困りごとが発生した場合には随時連絡を取ることもできます。

一人暮らしに向けた選択肢が増えたといえますが、自立生活援助は訓練等給付となっていることもあり、サービスの対象や利用期間などが不明です。日常生活に即した支援の位置づけが求められます。

就労定着支援

就職した知的障害者と勤務先の会社、家族などを訪問して主に生活上の課題を解消するためのアドバイスや調整を行う支援です。就職後も定着ための支援が受けられるようになります。

65歳を迎えた人への対応

65歳以上は介護保険制度が優先されるため知的障害者の方々は、それまで利用していた福祉サービスが利用できなくなり、65歳の壁として多くの現場で問題視されていました。

今回の法改正では生活介護を含む障害福祉サービスの事業所が介護デイを併設できる仕組みを（共生型）位置付け65歳をすぎても引き続き同じ事業所を利用できる仕組みとなります。

改正された点をよく理解し良い支援の継続を図っていきましょう。

平成 28 年度研修会報告

「テーマ 共生社会の実現のために」

長野県人権尊重社会づくりの補助金事業

平成 28 年 11 月 5 日 駒ヶ根市会場

平成 28 年 11 月 13 日 坂城町会場

「災害への備え」 駒ヶ根会場 報告 駒ヶ根市手をつなぐ育成会会長 山岸 秋男

近年国内の北から南まで自然災害発生しています。

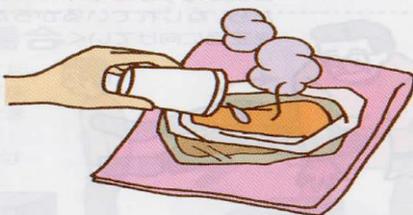
そんな折「災害弱者をかかえる家族の備えとは」といった演題で元諏訪赤十字病院看護師、現社会福祉法人雄仁会のむぎ副施設長の奥原ます子様の実演を交えた講演会を開催しました。知的障がい児者が災害に合い、あなたが支援を受けるときにどうしたらこの子にあった支援を受けることができるか、また備えをどうしておくのがよいのか奥原様の避難地での支援経験から具体的な対処法をいくつか学びました。少量の熱湯で作るホットタオルや二枚の風呂敷で作るリュックなど、身の回りにある品々で避難先でも、工夫次第で困難を乗り越えられる方法を学びました。

午後のパネルディスカッションでは奥原様に助言者となっただき奥原様からは東北大震災の避難所での体験談、長野県危機管理課の島田俊彦様からは長野県の自然条件の特色と自然災害のリスク対策について、中村彰県育成会会長からは地域防災の取り組み、岡谷市手をつなぐ親の会会長、宮坂久雄会長からは障がいを持つ子の親として行政への要支援者への登録（緊急カード）や日常の備えについて、それぞれのお立場で災害への取り組みをお話いただきました。

まだ県内の市町村自治体では障がい者、特に知的障がい児者の避難所が明らかになっていないように感じます。是非一日も早く自分たちが長期にわたって安心して避難できる場所を確認しいざという時に備えておきましょう。

【研修会で学んだ お湯80ccで作る ホットタオル の作り方】

1 ビニール袋にタオルを一枚入れ
熱湯をかける。



2 乾いたタオルに包んで
軽く押える。



用意するもの

- タオル
- 80ccのお湯
- スーパーの小袋

お湯を一滴も無駄にせず、清拭用のホットタオルができました。

少量の貴重なお湯で湯たんぽ代わりにもなると参加者にも好評でした。



11月13日(日)に坂城町文化センターにおいて、長野県手をつなぐ育成会研修会(東北信長野会場)が開催され、90名の皆様が参加しました。

基調講演では高水福祉会の野口直樹さんから、障害者権利条約批准後の障がい福祉の考え方と、それに基づいて進められている「総合安心センターはるかぜ」の取り組みについてお話をいただきました。日頃、目の前の生活の大変さや障がい者本人の意思表示の難しさから、本人ではなく家族や地域の都合で福祉サービスが決められている現実の間違いに気づかされ、私たちが欲しいと思っている支援が実現されていることに驚かされました。

中村会長の司会で進められたパネルディスカッションでは、佐久市広域連合の木次洋史さんと上田市の小山秀永さんからそれぞれの地域で協議が進められている地域支援について紹介があり、上田市育成会会長吉池宝善さんからは違った視点からということで、地域で暮らす障がい者を知り尽くした警察官が彼らが次々起こすトラブルに的確に対応している映画の紹介がありました。

地域支援には人的資源の確保とそのための費用の確保が大きな課題となっており、行政と連携して取り組んでいくことが大切であると考えさせられました

地域生活支援拠点とは・・・講師 野口直樹氏の「総合安心センターはるかぜ」は全国に先駆けて発足した24時間対応の相談と緊急駆けつけ支援を行う支援センターです。これは国が進める地域生活支援拠点事業で平成30年までには長野10圏域に各1か所作ろうという目標のもと各自立支援協議会で話あわれているところです。障がい者ご本人が地域で暮らし続けるためにも必要な支援です。多くの方と拠点事業のことを共有し「本当にどうしようもなく困った時」への支えが可能になるよう育成会の活動として、今後も関心をもっていきましょう。



会員獲得プロジェクト活動報告

今年度の総会時に「会員の高齢化と会員の減少」への対策として、各地区から委員を選出し会員拡大のための委員会を発足することとしました。プロジェクトメンバーを県育成会所在地の長野市周辺地域から若手の会員3名を選出し、中村会長、塚田事務局長が加わり計6回会議を開催しました。

「育成会」の会員であることへの意味や意義など若い親御さんへどう伝えたらよいか、情報の取り方の背景などを考えて具体的な活動への取り組みを話し合いました。

インターネットを利用した会員向けサイトの開設やホームページの充実も育成会の存在アピールとしては、大きな要因となり得るものですが、一方通行の顔の見えないつながりは育成会に加入する、媒体としてはあまり期待できないとし、顔と顔が会える場の提供として「茶話会」の開催を企画しました。実際に長野市で2回開催しました。詳しいご報告は総会でご紹介します。



上田市手をつなぐ育成会では、上小圏域自立支援協議会様に協賛いただき、平成29年2月25日(土)、長野大学リプロホールにおいて「障害児者の触法の課題をみんなで考えるセミナー」を開催しました。

講師には自身のお子さんも自閉症で育成会員でもある大阪弁護士会所属の辻川圭乃(つじかわたまの)弁護士をお迎えし、育成会員、福祉関係者だけでなく、県内の刑務所職員、教育・行政関係者など110名を超える参加者とともに課題について学ぶ機会となりました。

触法行為に着目するのではなく、成育歴や背景、原因をしっかりと捉えた上での支援の重要性をあらためて認識しました。今回は主に支援者向けの内容でしたが、今後、当事者の抱える課題をテーマとしたセミナーを開催したいと思います。

報告 上田市会長 吉池 宝善



麻績村手をつなぐ育成会 主催

「春よ来い 手づくりコンサート」

第1部

ドリームワークス(松本市)の演奏

第2部

大月裕夫(松本盲学校卒業、武蔵野音大卒)

ピアノリサイタル

第3部

麻績村童謡を歌う会の合唱

1月21日麻績村地域交流センターでひと際穏やかで温かなコンサートが開催されました。

大月さんのピアノ演奏には心から感動しました。

なじみのある曲や歌で、地域の方々と、ドリームワークスのメンバー地元の障がいのある方々と音楽を通じ出演者も主催者も入り混じってのひと時には、流石の冬将軍も退散とあいなった事でしょう。

お知らせ

育成会の冊子「手をつなぐ」が来年から100円値上げになります。

平成29年4月から3,900円

100円のうち50円は災害支援基金として積み立てられます。

購買数の減少のため50円は冊子発行経費の補充に充てられます。

引き続き継続的な購読をお願いします。

編集後記

厚生労働省が少子高齢社会を見据えた将来プランを発表しました。

名付けて「我が事・丸ごと地域共生実現社会」地域共生社会を実現するために地域を基盤とする包括的支援の強化を2020年代初頭には全面展開し介護、支援の担い手を地域住民参画で進めていこうという事ようです。知的障害児者への支援は専門性が問われる場面が多くいくつもの課題もあります。一人ひとりが「我が事」と考えていかねばならない問題ですね。